

I. 【2022(令和四)年度の重点取組目標・計画の実施状況】

1. 地球温暖化対策（温室効果ガスの抑制）

当社では、省エネルギーに努め、CO₂排出量の削減、排出原単位の低減を図ってきました。2022年度は、前年度比13.5%の減、また原単位は11.5%の減となりました。

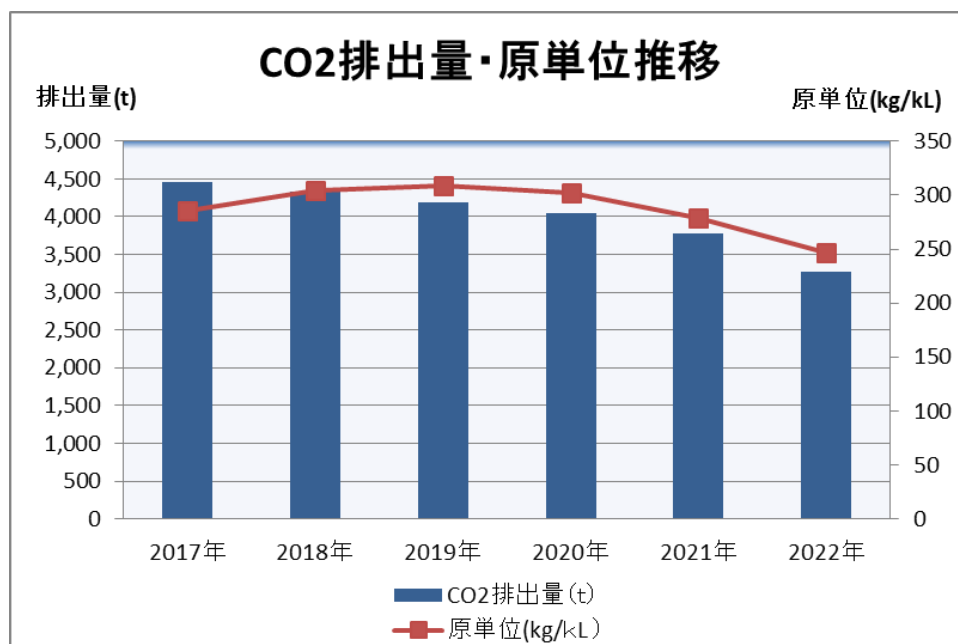
排出総量は下表と下図の通り、2016年度以降は減少傾向が続いています。これは、ボイラー燃料を2019年12月に重油からガスに変更したことと、電気の排出係数が低下していたためです。

今後も実現可能な新たな目標を掲げ、CO₂排出量削減に努めてまいります。

CO₂排出状況の推移

項目	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	
販売量 (kℓ)	15,583	14,252	13,571	13,385	13,512	13,214	
CO ₂ 排出量 (t)	重油・灯油	1,174	1,215	799			
	LPガス					44	70
	都市ガス	571	526	740	1,272	1,346	1,212
	電力購入	2,717	2,588	2,646	2,121	2,383	1,982
	軽油・ガソリン	1	0	1			
	J-クレジット売却分				655		
	合計	4,463	4,328	4,185	4,048	3,773	3,264
排出原単位 (kg/kℓ)	286	304	308	302	279	247	

〔備考〕2019年12月にボイラー燃料を重油から都市ガスに変更した。また、2020年3月にフォークリフトは全数バッテリー型へ更新完了した。



2. 省エネルギーの推進

下表、下図にエネルギー使用量・原単位の推移を示しました。2022年度は設備更新のため工場の休止期間長かったことにより燃料、電力、用水全てにおいて使用量が減少しました。販売量は2.2%の減少でしたが、燃料総量は8.0%の減少となり、原単位は6.0%の減

少となりました。

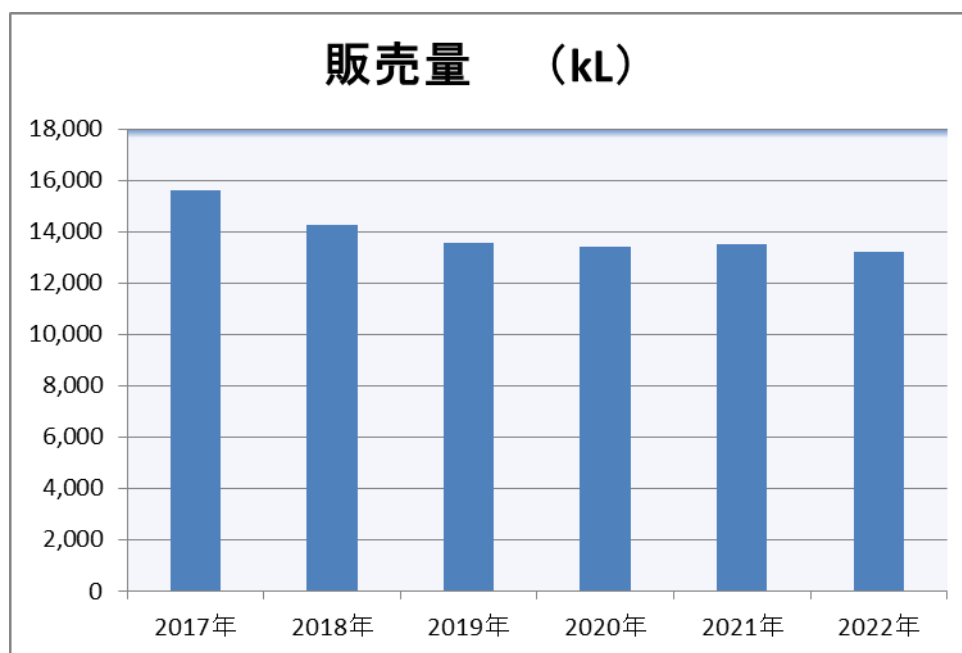
また、電力総量は6.9%減少し、用水については9.1%減少したため、それぞれ原単位は4.8%、6.5%の減となり、目標を達成することができました。

今後も、エネルギー管理体制をより強化し、設備稼働の効率化を重点に省エネ活動を推進します。特に電力はエネルギー消費量の約70%を占めるに至り、高効率設備更新や電力ピークカット等の実効性のある節電対策を検討してまいります。

エネルギー使用量・原単位の推移

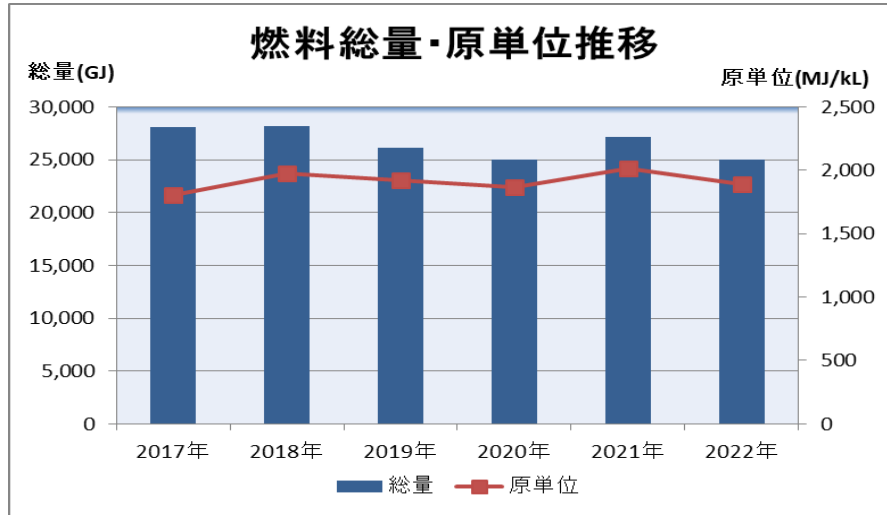
項 目		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
販売量	(kℓ)	15,583	14,252	13,571	13,385	13,512	13,214
燃料	総量(GJ)	28,087	28,147	26,097	24,994	27,192	25,007
	原単位 (MJ/kℓ)	1,802	1,975	1,923	1,867	2,012	1,892
電力	総量(千 kWh)	5,438	5,902	5,961	6,019	6,224	5,794
	原単位 (kWh/kℓ)	349.0	414.1	439.3	449.7	460.7	438.5
用水	総量 (千 m3)	185	183	177	174	187	170
	原単位 (m3/kℓ)	11.8	12.9	13.0	13.0	13.8	12.9

販売量の推移

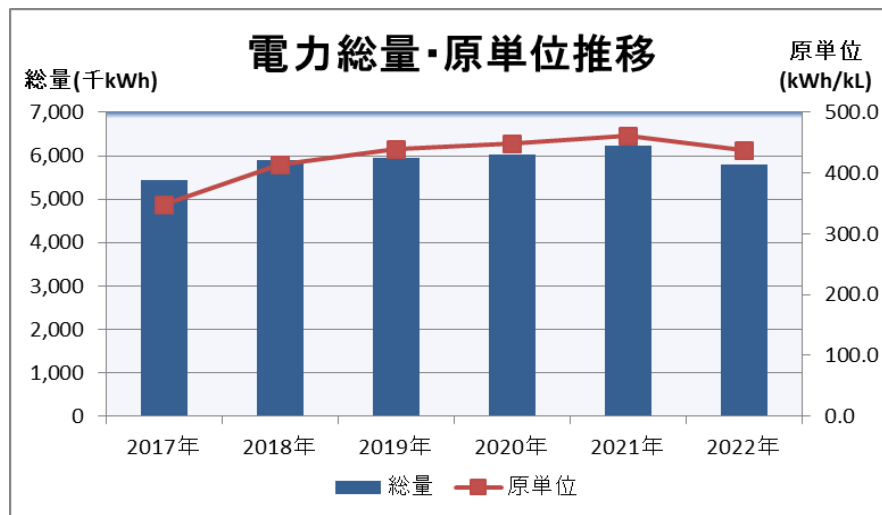


総量と原単位の推移

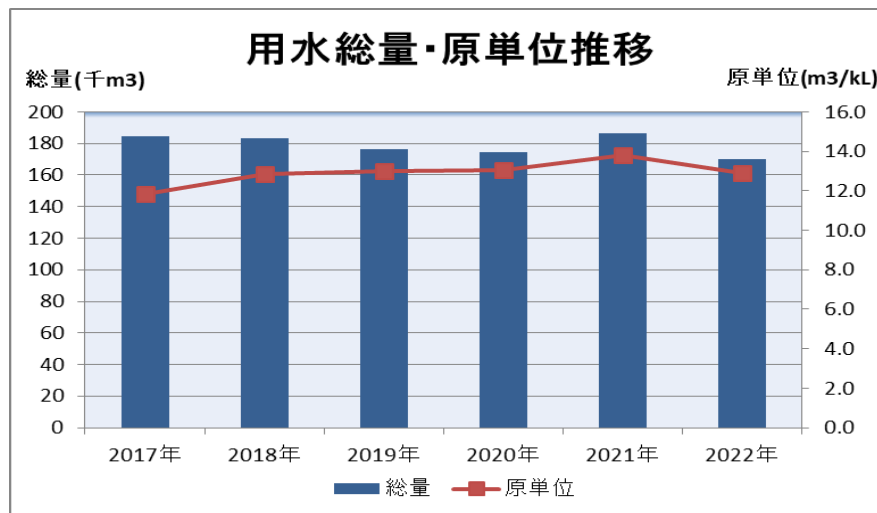
燃料



電力



用水



II. 【公害防止対策に係わる報告】

1. 目標達成のために講じた措置・対策

目標項目		目標達成状況	講じた措置・対策
水質汚濁防止対策	排出水の水質管理及び汚濁負荷の総量管理	水素イオン濃度、生物学的酸素要求量は法定基準値を超えたことがあった。浮遊物質、温度は管理目標値内であった（測定結果は2.の表に記載）。	排水処理施設の適正な維持管理に努めると共に測定計画目標値の順守状況を確認した。BOD が基準を逸脱した際には神戸市に報告し、指示に従った。

2019年12月に重油ボイラーから都市ガスを燃料とした小型ボイラーに更新済みのため、排ガスの測定は実施していない。

2. 2022年度排出水の汚濁状態測定結果

法令排水基準設定項目 (生活環境項目)	項目	排水口	管理目標値	測定値		全測定回数	目標値を超過した回数	目標達成判定	法令基準達成判定
				最大	平均				
	水素イオン濃度 (pH)	嘉宝蔵西	5.5~8.5	4.6~7.5	6.5	300	3	×	×
		製品工場東北		5.6~9.8	6.3	500	1	×	×
	生物学的酸素要求量 BOD (ppm)	嘉宝蔵西	1,500	21840	1073	60	7	×	×
		製品工場東北		200	232	98	25	1	×
	浮遊物質 SS (ppm)	嘉宝蔵西	800	500	82	12	0	○	○
		製品工場東北		30	20	2.4	25	0	○
温度 (°C)	嘉宝蔵西	45	34	21.2	300	0	○	○	
	製品工場東北		40.1	29.8	500	0	○	○	

- [備考]・排除基準値 pH: 5 を超え 9 未満、BOD と SS : 2000ppm 以下、温度 : 45°C 未満
- ・ BOD 値は COD 測定値を換算、嘉宝蔵西は自社分析と共に毎月外部機関に分析委託
 - ・ 測定値最大の項で pH のみ最小~最大値を表示
 - ・ ○ : 達成、× : 未達成

III. 【地球温暖化対策に係わる報告】

1. 2022年度における電気・燃料等の使用量、温室効果ガス排出量

活動の区分	燃料等の種類	使用量等	単位	単位発量(MJ)	排出係数 kg-CO2/MJ	排出量 kg-CO2
使用燃料	LP ガス	23,295	kg	50.8	0.0591	69,885
	都市ガス	529,405	Nm3	45.0	0.0509	1,212,337
電気事業者から供給された電気量		5,793,869	kWh		0.342 (kg-CO2/kWh)	1,982,118
合計						3,264,341

〔備考〕電気の排出係数は、省エネ法令和四年度温室効果ガス算定値を使用し、使用電気会社の値を使用量で積算し加重平均を算出した。

2. 2022年度の計画達成状況

温室効果ガス	前々年度 (2020年度)	前年度 (2021年度)	今年度目標 (2022年度)	今年度実績 (2022年度)
CO ₂ (kg)	4,048,335	3,772,937	3,735,207	3,264,341
対前年削減率 (%)	3.3	6.8	1.0	13.5

3. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

分野	項目	細目	目標	実施状況
エネルギー使用の合理化	節電	昼休みの一斉消灯、食堂の利用時間及びエレベーターの使用制限、室内温度管理の徹底、扇風機の活用	燃料・電力使用量を2021年度に比べ、2022年度に1%削減する。また、その使用に伴うCO ₂ 排出量を1%以上削減する。	設備更新のため工場の休止期間長かったことにより、燃料・電力使用量ならびに、CO ₂ 排出量は目標を達成することができた。
製造工程における対策	燃料使用量の削減	ボイラーの管理標準に従った効率運転の徹底、蒸気使用設備の消費ロス低減		
	生産計画の見直しによる設備稼働の平準化、効率化の実施	各エネルギー設備の高効率運転、夏期の設備稼働制限、デマンド値の抑制		

IV. 【公害防止対策、地球温暖化対策以外の地球保全活動に係わる報告】

2022年度の環境保全活動に係わる具体的実施内容

	分野	項目	細目	目標(前年比)	実施状況
1	節水	節水対策強化		徹底	微減
2	事業所等での廃棄物の適正処理・減量	分別回収	紙類回収専用箱及び空容器別回収コンテナの設置	徹底	ほぼ100%回収
		ペーパーレス化推進、コピー用紙の使用数削減、社内ネットワーク、プロジェクターの利用推進		徹底	継続
		集約印刷、裏紙コピー用紙の再利用		徹底	
		文具類の共同使用		徹底	継続
		廃棄物発生量の削減	再生利用、減容化の推進	徹底	継続
	事務所等	グリーン購入の実施	文房具、事務機器・備品		

3	の再生製品の 使用	再生紙の使用促進	コピー用紙、パンフレット等の再生紙利用	50%以上	ほぼ達成
4	環境負荷の 少ない資材 類の選択、 減量化	軽量容器の採用		随時	継続
		贈答ケース減容化、簡易包装の推進		徹底	継続
		ライスインキを紙パック容器の印刷に使用		随時	実施
		紙パック資材に FSC 森林認証紙を使用		随時	実施
5	自動車対策	積載量の適正化	—	全車両	継続
		エコドライブ・アイドリングストップの推進	—	徹底	継続
		低公害・省エネ・軽四車への転換	—	買替時	実施
		トラック配送合理化	—	共同配送等の推進	継続
		自動車運転機会の低減と自転車利用の推進	—	徹底	継続
6	特定フロン、代替フロン等使用機器の管理	設備更新時、特定フロン非使用設備を導入	—	更新時	実施
		特定フロン使用機器の適正廃棄	—	回収の徹底	実施
7	環境施設整備	緑地の整備	—	構内既設全域	実施
		森の世話人活動	国土交通省六甲砂防事務所が主宰する六甲山系の森の保全活動に参画	随時	実施
8	従業員教育	省エネ提案の募集	社内提案制度キャンペーン実施	2回/年	実施
9	地域社会への参画	事業所周辺の清掃活動	—	毎週実施	実施
		住吉川清掃活動への参加	—	2回/年	実施
		蔵開放イベントの実施	—	1回/年	実施
10	品質保証システムの充実	ISO22000 の維持・管理	内部監査の実施と監査員の育成	随時	実施